



和田 恵子 さん(榎生一丁目)

世代を超えて楽しめる盆踊りを共に踊り、郷土の記憶を子どもたちへとつなぎましょう。

下館音頭を次の世代へ

下館音頭は『蘇州夜曲』、『青い山脈』、『東京音頭』などを作詞した

お盆最後の2日間、下館の夜は笛や太鼓の音色で彩られ、盛大に下館盆踊り大会が開催されます。浴衣や揃いの衣装に身を包んだ老若男女約300人が、大きなやぐらを囲んで郷土民謡「下館音頭」と「笠抜き踊り」を踊る風景は、後世に受け継ぎたい筑西の夏の風物詩。人々に親しまれてきた、これらの踊りの継承に取り組み団体である、下館郷土民謡保存会会長の園部さんにお話を伺いました。



後世に繋ぐ 祭りの文化



下館郷土民謡保存会 園部会長

西條八十が、戦後、町の特徴を織り込んで作詞したもので「踊りゆかたで つい夜が更けて チョイト浮名の 巽坂」など、歌詞から当時の下館の様子が伺えます。また、腰を低くして踊ることが特徴的な笠抜き踊りは、下館町出身の勘治という人物が、家業を引き継ぎ堅気になった証に踊ったと伝えられています。そんな下館音頭を下館の民謡として定着させるため、昭和21年に下館郷土民謡保存会が結成されました。現在は12人で活動し、伝統文化を次世代に繋げるため、下館音頭と笠抜き踊りの指導をしたり、下館盆踊り大会当日に笛や三味線などの生演奏や生歌を披露し、会場を盛り上げたりしています。園部さんは「もともと

と祭りや太鼓が好きで、何より、八十が下館のために作ったこの歌をなくすわけにはいかないという思いから、24歳の時に入会しました」と活動を始めたきっかけを話します。

飛び入り参加も大歓迎

会員の高齢化などで会員数が減少し、踊りの継承には新しいメンバーが必要だといえます。「演奏できる楽器も限られ、太鼓の演奏は別の団体をお願いしています。今の目標は、会員数の増加と踊りの継承です」と園部さん。そのため、講習会での踊りの指導を通じ、まずは祭りの文化に触れてもらうことを大切にしています。「盆踊りをぜひ見に来て、祭りを好きになってくれるとうれしいです。当日の飛び入り参加も大歓迎です」と話す園部さんからは、純粋に祭りを楽しんでほしいという思いが感じられました。

取材を終えて

話を聞いて、歴史ある祭りの文化

を継承するという園部さんの熱意が伝わるとともに、郷土芸能を次世代へ伝承しようとする取り組みのおかげで、地元の文化が守られていることが分かりました。今年、51回目となる下館盆踊り大会が4年ぶりに開催されます。ぜひ一緒に祭りを楽しみましょう。

下館音頭・笠抜き踊りの講習会

日時…8月2日(水)午後7時～

場所…アルテリオ集会室(申込不要)

下館盆踊り大会

日時…8月15日(火)、16日(水)午後7時～

場所…アルテリオ前広場

過去の下館盆踊り大会の様子はこちら▼



下館音頭(一部抜粋)

作詞 西條八十

作曲 中山晋平

一 筑波みやげは

下館音頭
粋な旅衆も
出て踊る

二 筑波仰いで

勤行の川の
水で磨いた
心意気

三 おらが下館

住みよい居よい
二十六町
春の風

